

金沢市立城南学校

平成30年度 学力向上の取組（2学期）

1 研究主題 「自ら学び、考え、豊かに表現できる生徒の育成」
～主体的・協動的な学びからの学力向上をめざして～

2 現状・課題（各種学力調査結果、平成30年度学力分析シート等から）

<p>（1）児童生徒の現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査ではすべての教科で国の平均正答率を上回った。 ・県基礎学力調査では、英語の正答率が年々県との差が開いており、今年度は7.4%下回る結果となった。 ・国語Aでは6年で学習する漢字の正答率が国を2.2%(県8.1%)下回った。中1学習到達度確認問題での小6の漢字の正答率も低く、小学校6年で学習する漢字の定着に課題がある。 ・国語Bでは、複数資料を用い、複数の条件を満たして解答しなければならない問題が、正答率が17.2%という結果であった。論の展開を捉え、必要な内容を選択し整理して書くことに課題がみられた。 ・数学Bでは、図形の変化について説明する問題が国、県の正答率を9.5%下回った。やはり条件を読み取り、説明することが苦手で、説明する問題について無解答が多くなる結果となった。 ・理科では、生物分野や地学分野における用語理解が曖昧で、水溶液の質量パーセント濃度などの計算分野が苦手、実験の結果を深く分析、考察する力に課題がみられた。 ・社会では、地理分野、歴史分野とも「知識・理解」に関わる問題については概ね良好な結果であったが、「思考・判断・表現」及び「資料活用」の技能に関わる問題の正答率が低く、資料をもとに考察し適切に判断する力に課題があった。 ・英語では、正しい語順で書く力が問われる問題3問で、県の正答率を15%以上下回る結果となった。 ・「課題の解決に向けて自分から取り組んでいた」の肯定的回答は国、県をともに下回り、年々減少する傾向にある。 	
<p>（2）指導の現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日ノートの点検などをし、家庭学習の指導をしていると回答した教員は100%であったが、毎日家庭学習に取り組んでいると回答した生徒は昨年を2.5%下回り、一日2時間以上学習している生徒は30.2%にとどまった。 	

3 重点的に行う取組と検証 ※1学期と変更した箇所は「MSゴシック体」にする

		授業で行う取組		授業以外で行う取組	
		取組①	取組②	取組①	取組②
重点的に行う取組		「自分で考えます」では、根拠を明らかにして書くように指導し、マグネットプレート「考える」を提示し、意識付けをする。	「自分の考えを伝え合います」ではお互いの意見を交流する機会を設け、授業形態を工夫する。	家庭学習の定着と質の向上を図るため、毎日自主学習ノートに取り組む。	テスト勉強計画を立て、計画通りに学習できるように指導する。
	検証の方法と指標	方法課題の解決に向けて「自分で考える」時間を1時間の中で必ず確保する。 指標月の実施80%以上	方法「みんなで考えを伝え合う」時間が確保できた授業は週案に◎を記入する。 指標月の実施70%以上	方法毎日点検し、必要に応じてのアドバイスしや良い取り組みの紹介をする。 指標毎日実施	方法目標時間を設定し、取り組みの状況を提示する。 指標テスト毎に点検
	児童生徒の状況	方法授業アンケートで確認する。 指標肯定的回答の割合85%以上	方法授業アンケートで確認する。 指標肯定的回答の割合80%以上	方法授業アンケートで確認する。 指標肯定的回答の割合80%以上	方法テストの振り返りや授業アンケートで確認する。 指標肯定的回答の割合80%以上

4 年間計画



月	PDCA	授業で行う取組	研究授業	授業以外で行う取組
7 ・ 8 月	分析 計画	<p>教務主任が学校の成果と課題を集約し、研究主任が校長・教頭・教務主任とともに学力向上策を立案する。</p> <p>研究主任が職員会議で学種学力調査結果を全職員に周知するとともに、分析方法や手順、役割分担を提案する。</p> <p>全職員が分析に関わり、学力における成果と課題を明らかにする。</p> <p>研究主任が職員会議で学力向上策を提案し、全職員で具体的な取組や検証の方法、指標について共通理解する。</p> <p>学年主任・学習担当が2学期の学年の取組について提案し、共通理解を図る。</p>		
9 ・ 10 月	実践 検証	<p>全職員が「自分で考え、自分の考えを伝える合う」授業を実施する。特に、自分で考える時間を毎時間確保する。（意識付けもする。）</p> <p>研究主任が指導の状況を集約する。</p>	北村講師 八尾教諭 守田教諭 小國教諭 神邊講師	<p>全職員で自主学習ノートの点検と良い取組のノートの紹介を行う。</p> <p>学年主任は学年会で担当や進捗状況を確認する。</p> <p>学習係・リーダー会担当は、テスト勉強の取組を提案、状況を把握する。</p>
11 月	改善	<p>研究主任が指導の状況を確認し、教務主任とともに改善策を提案する。</p> <p>全職員が改善策を共通実践する。</p>	鳩 教諭 神邊講師 岡島教諭 本川教諭 穴畑教諭	<p>学年主任は学年会で指導の状況及び生徒の状況について確認する。</p>
12 月	検証	<p>教務主任が指導の状況及び生徒の状況についての達成状況をまとめる。</p> <p style="text-align: center;">評価問題を「学力向上の取組（2学期）」の検証の機会とする。</p> <p>校長・教頭・教務主任・研究主任が2学期の成果と課題を整理する。</p>	中村教諭 福島教諭 松田教諭	<p>学年主任は学年会で指導の状況及び生徒の状況について確認する。</p> <p>教務主任が達成状況をまとめる。</p> <p>校長・教頭・教務主任・研究主任が2学期の成果し課題を整理する。</p>
平成31年1月以降は、「学力向上の取組（3学期）」に基づき実践するため、各学校は以下の内容について、加除修正する必要はない。				
1月		評価問題の結果に基づき、「学力分析シート」を作成する。 分析結果から「学力向上の取組（3学期）」を作成する。		
2、3月		「学力向上の取組（3学期）」に基づき実践・検証・改善を行う。		

